

## 令和4年度第1回農林水産技術会議評価専門委員会議事要旨

場所：農林水産省 第2特別会議室

日時：令和4年8月4日（木）13:00～18:00

出席者：

（専門委員）

犬伏 和之	学校法人東京農業大学応用科学部 教授 国立大学法人千葉大学 名誉教授グランドフェロー
大黒 俊哉	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
岡崎 恵美子	国立大学法人東京海洋大学 客員教授
椛島 裕美枝	イオン株式会社環境・社会貢献部 マネージャー
榊田みどり	農業ジャーナリスト
外村 玲子	中村合同特許法律事務所 弁護士
西野 和美	国立大学法人一橋大学経営管理研究科 教授
黛 佐予	有限会社妙義ナバファーム 取締役
丸田 洋	株式会社穂海代表取締役社長
水落 隆司	三菱電機株式会社 執行役員 ビジネスイノベーション本部 副本部長

（事務局）

農林水産技術会議事務局  
中澤研究総務官  
研究企画課 松本課長、前田研究調整官、本宮課長補佐

議 事

研究制度の事前評価

- （1）みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうちみどりの品種開発研究（新規）
- （2）みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうち現場ニーズ対応型研究（拡充）
- （3）みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうち革新的環境研究（拡充）
- （4）みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうちアグリバイオ研究（拡充）
- （5）みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうち目標達成先導研究（新規）
- （6）みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうちみどりの食料システム戦略実現のためのアウトリーチ活動の展開（新規）
- （7）安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業（拡充）

## 要 旨

(主な意見)

### 研究制度の事前評価

#### (1) みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうちみどりの品種開発研究(新規)

- ・新品種の開発、育種効率化基盤「育種ハイウェイ」構築に向けた取組は「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて非常に重要である。
- ・国が先導して、生産現場との連携を密にして早期の普及・実用化を期待する。
- ・遺伝子ドナーについては、知的財産権の取得を戦略的に行っていただきたい。また、「育種ハイウェイ」構築に向け高度データサイエンティストの参画が重要である。
- ・アウトカム目標設定について、さらに一步踏み込んで、その数値がもたらす社会的・経済的な波及効果について見えるよう充実化を図ることを期待する。
- ・食料安全保障の観点から、子実用とうもろこし、牧草も対象とすることや、ナス科の青枯病のような既存の農薬で対処できない病気への対策の検討を期待する。

#### (2) みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうち現場ニーズ対応型研究(拡充)

- ・現場ニーズに対応する本制度の意義は非常に大きい。また、「みどりの食料システム戦略」と連動させた課題設定も妥当である。広範な農林水産業にわたる課題に対し、国が主導的に取り組む必要性は高い。
- ・鳥獣被害対策等について、これまで得られた知見や既に普及された技術について十分に精査した上で、それらを活用しつつ、さらに必要な技術について研究を進める必要がある。

#### (3) みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうち革新的環境研究(拡充)

- ・将来を見据え、環境分野における関連技術のイノベーションを推進する本制度の重要性は非常に高く、国の関与が重要である。他の制度との役割分担も明確であり、研究制度としての妥当性は高い。
- ・ESG投資を先導する生態系サービスの経済的価値の指標設定は、民間企業(特に大手食品企業等)にとっては喫緊の課題である。国が先導して指標の策定を行い、グローバルスタンダードにつながるような取組を期待する。
- ・本研究課題の推進には、国だけではなく、金融機関等、関係機関との連携も不可欠である。

#### (4) みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうちアグリバイオ研究(拡充)

- ・ブリ等の養殖業の成長産業化、「みどりの食料システム戦略」のKPIである人工種

苗比率100%の実現に向けて、効果的な抗菌剤使用法の開発が不可欠となっており、国が主導して計画的に推進する必要性が高い。

- ・ 今後、輸出増加を見据えて、抗菌剤の使用の低減が世界的な潮流であることから、ワクチン研究などと連携しつつ、最終的なゴールとして抗菌剤使用の低減を目指すことも、この研究制度の課題に加えていただくことを期待する。

#### (5) みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうち目標達成先導研究（新規）

- ・ 実現可能性について検証が必要な技術・テーマについて、本格プロジェクト化する前に、ステージゲートを設けることの重要性は非常に高い。
- ・ 民間がチャレンジするにはリスクが高い研究に対して、国が支援して、先導研究を行う仕組みの重要性は非常に高い。
- ・ 課題採択、絞り込みの段階での基準を明確化する必要がある。
- ・ 研究課題の絞り込み段階において、評価・検証を行う組織は、研究の面だけではなく、社会・経済的な視点から多様な評価ができる人材によって構成されることが重要である。
- ・ アウトカム目標を課題の件数で示しているが、今後、検証が必要と考える。  
なお、FS等の研究制度については、政策評価（事前評価）のあり方についての検討が必要と考える。

#### (6) みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進のうちみどりの食料システム戦略実現のためのアウトリーチ活動の展開（新規）

- ・ 「みどりの食料システム戦略」の実現のために社会実装することが不可欠な先端技術について、国主導で、サイエンスコミュニケーションにより、技術の必要性・有効性・安全性を分かりやすく普及する活動は非常に重要である。
- ・ アウトリーチ活動を効果的・効率的に推進するために、ターゲットと手法のマッチングについて、深掘り・精査等の工夫をすることを期待する。
- ・ 理解度の測定については、知識の集積・取得の面だけではなく、それがもたらす行動変容や、社会的・経済的波及効果を示す工夫を期待する。

#### (7) 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業（拡充）

- ・ 安全な農畜水産物・食品の安定供給の点から、当研究制度のニーズは非常に高い。
- ・ レギュラトリーサイエンスは国主導で着実に進めるべき研究・制度であり、着実な実施が求められる。